



インドネシアで多くのフォロワーを持つ女性モデルらが着物の着付けなどを体験した

訪日ムスリム 台東区に来て

情報発信を強化

ハラール対応飲食店 ホテルの担当者招く 公式フェイスブック インドネシア語対応

東京都台東区はイスラム教徒（ムスリム）の訪日外国人（インバウンド）誘致に乗り出す。外国人の宿泊客が多い首都圏ホテルのコンシェルジュをイスラム教の戒律に沿ったハラール食を出す区内の飲食店に招く。ムスリム人口が多いインドネシア語で区の公式フェイスブックも立ち上げる。外国人に人気の浅草がある台東区はインバウンド誘致で先行しており、伸びが見込める訪日ムスリム誘致に力を入れる。

都内や横浜市、成田空港周辺など外国人の宿泊客が多いホテルや観光案内所のコンシェルジュをハラール食に対応したレストランなどに招く。6月



まず頼るのがホテルや観光案内所のコンシェルジュだ。区内の飲食店が出すハラール食をコンシェルジュ自身に食べてもらえば、観光客に案内しやすい。効果的な誘致につながるとみている。

区は8月中にもインドネシア語の公式フェイスブックを立ち上げる。7月上旬に民間企業1社を選び、運営を委託する。インドネシア人がいる企業に運営を任せたい考え。祭りなどのイベント情報やハラール対応の飲食店の情報をインドネシア語で発信し、訪日客を区内に呼び込む。区はすでに英語や韓国語などの公式フェイスブックと中国版ツイッター「微博（ウェイボ）」を持つが、これにインドネシア語のフェイスブックを加える。区はイスラム圏で影響力を持つプロガーラを浅草など区内の観光名所に招く取り組みも始めた。5月にはコンサルティング会社の michi（ミチル、東京・中央）と連携。来日したインドネシア人の女性モデルやデザイナー7人を浅草に案内。呉服店で着付けを体験したり、人力車に乗ったりしてもらったほか、ハラール対応のすし屋に招いた。7人はいずれもフェイスブックなどの交流サイト（SNS）で数千人から数十万人のフォロワーを持つ。日本滞在中の模様をフェイスブックや写真共有サービス「インスタグラム」に投稿してもらう。書き込みや写真を拡散させることで、浅草を訪れる訪日インドネシア人の増加につなげる。区は今後も有力プロガーラを通じて情報発信を強化する考えだ。